



ベトナム 国立チョーライ病院との学術交流

このことに関して、以下のとおり記者会見を行います。

日時：平成29年2月17日（金）15時00分～16時00分

会場：滋賀医科大学 中会議室（管理棟2階）

学術交流の概要等（別紙をご参照ください）

会見出席予定（変更となる場合がありますことをご了承願います）

心臓血管外科 教授

国際交流支援室 室長・主査

看護部長

放射線部技師長

つきましては、当日取材にお越し頂き、紙面・番組等でご紹介いただければ幸いです。

お越しいただける場合は、事前に企画課までご連絡をお願いいたします。

《お問い合わせ》

滋賀医科大学 企画課（担当：阪井・加藤）

TEL：077-548-2012

e-mail：hqkouhou@belle.shiga-med.ac.jp

ベトナム社会主義共和国 国立チョーライ病院と滋賀医科大学との学術交流

【交流の概要】

滋賀医科大学は、先端医療の指導から学生サークルによる草の根交流まで、全学的な活動でベトナムとの学術交流を発展させてきました。今春も、心臓病に苦しむ患者さんを救うために滋賀医科大学から医師が訪越し、また、国際医療を考える学生たちがスタディツアーを実施します。

【主な交流期間】

国立チョーライ病院

ベトナム社会主義共和国 ホーチミン市

1900 年開設 1,700 床 外来患者数年間 100 万人

教育病院としてベトナム人医学生の実習、専門医教育研修を行う

【交流の経緯】

2006 年 12 月

当時の吉川学長が訪問、学術交流協定を締結（契機は JICA 事業での放射線部職員の技術支援）。

以後、放射線部（技師）、看護部（看護師）、外科学講座（外科医師）が学術交流を継続、受入も実施している。

【交流実績等（職種別）】

医師（心臓血管外科）

2010 年当時心臓の心拍動下バイパス手術を習得すべく講師を探していたチョーライ病院からの依頼に、前学長（馬場）が積極的に応じたことがきっかけで、その後バイパス手術だけでなく複雑弁膜症手術、胸部大動脈解離や動脈瘤などの難易度の高い手術を当地の若手外科医を指導しながら、毎年一週間で 10-15 例ほど一緒に執刀治療している。滋賀医大から同行する若手外科医も滋賀医大を超えた臨床経験を積むこととなり、滋賀医大とチョーライ双方にとって貴重な交流機会になっている。今年は 3 月前半の訪問を予定しており、実現すれば 7 年目の訪問となる。

なお、2011 年から 1 年間、心臓血管外科医の研修受入を行い、育成に貢献した。

看護師

看護師が 2008 年からほぼ毎年訪問し、延べ 14 名が学会発表を行っている。

また 2007 年から 6 回にわたりチョーライ病院から留学生を受入れ、指導している。

放射線技師

2010 年から毎年 2 名程度の放射線技師が訪問し、講演会と技術交流を行っている。

医学部（医学科・看護学科）学生

2017 年 3 月後半に医学科・看護学科の学生 12 人がチョーライ病院、ホーチミン医科薬科大学、ツーズー病院等を訪問し、ドクさんとの面会も計画。

その他参考

チョーライ病院とホーチミン医科薬科大学は、別の機関ながらスタッフなどが相互に人事交流していることもあり、滋賀医大には両方の機関からたくさんの大学院生を受け入れている。すでに 5 人程度が博士号を取得して活躍しており、現在も 3-4 人が在学中。また医学科 4 年生の自主研修で、ここ 10 年ほど、毎年夏に数人の学生が研修でチョーライ病院やホーチミン医科薬科大学を訪問している。以前、看護部預かりで看護学科の修士を修了した方は、日本の国家試験にも合格した。現在は家庭のこともあり、チョーライ病院で働いておられるが、学生たちが訪問した際は、通訳としてお世話になっている。

TUKTUK の部活動としての成り立ち

私たち TUKTUK は地域医療、国際医療保健サークルとして様々な活動をしているグループです。2003年に、サークルを立ち上げたときには名前が決まっておらず、一年後に当時の代表者がタイにスタディーツアーに行った折に、タイの三輪車“TUKTUK”という響きがかわいいということで命名したようです。当初は海外スタディーツアーがメインの、国際医療保健サークルだったのですが、のちに国内のスタディーツアーもだんだんと計画するようになり、地域医療もその名前の中に加わり、現在に至ります。

活動内容

ここ二年の活動は、国内では東北被災地医療現場の訪問、チャイルドケモハウス訪問、同志社大学とのコラボで、報道と精神疾患を考えるシンポジウムの企画、実施、釜ヶ崎訪問、県庁から依頼のあった在宅医療パンフレットの制作、湖北病院への見学訪問、断酒会訪問参加、あそかビハーラ訪問、等々まだまだあります。

国外ではネパール、インドネシアに春休みにスタディーツアーに行っています。

ベトナムとの関わり

私はもともと、学生の間アジアの国々に行って、同じアジア人として共通する部分や、違う部分などを外から眺め、自身の見分を広めたいと思っていました。そして、去年の春にはインドネシアに行き、現地の医療を見て回ることができました。そこで、今回はまたアジアの国へ行こうというときに新たにスタディーツアーを計画し始めたわけです。当初候補の国としては、インド、ブータン、ベトナムと3か国があったわけですが、今回ベトナムを選択したのはやはり、学内にベトナムからの留学生の友人がたくさんできたことが大きかったと思います。それとともに、憲法第九条の改定問題や、隣国との関係に不安の残る昨今の状況の中で、もう一度医療人として命の尊厳をしっかりと考えるうえでも、枯葉剤の影響など、戦争の悲惨な現実が今もなお残るベトナムの医療の現状を見ることで大きな学びがあるのではないかと考えたことも理由の一つです。（我が国の将来の超高齢化社会に対する対策として、介護分野で将来ベトナムからの人材を雇っていくという案があるという話のある病院経営者から聞いたことも、ベトナムを見てみたいと強く感じたことにもつながっています。）

今回のスタディーツアーの訪問先

(予定：現在連絡中、お願いしている途中のものも含まます)

ホーチミン医科薬科大学、チョーライ病院、ツーズー病院併設平和村 (SOS Village)、ロータスクリニック (日本人医師により開設された医院)、NPO：Vハート (障害を持つ人々のための作業所、授産施設)、JICA ホーチミンオフィス、戦争跡博物館、とダナン観光等



ベトナム人留学生による勉強会の風景



ベトナム人留学生を囲む鍋パーティーの風景